

表4 太田川ダム 半年間のクラック幅と要修理箇所増加  
(H20.5~H21.1)

上流面総括	W 0.2~0.9
H21.1	8
h20.5	5
増加した亀裂数	3

要修理箇所	内訳
新生	1
○：幅増加	2
計	3

◎もともと0.2mm≤から増加

下流面総括	W 0.2~0.9	W≥1.0mm	合計	要修理箇所	内訳
H21.1	43	15	58	新生	3
H20.5	20	15	35	幅増加	33
内 幅不変	18	4	22	内	○20◎13
新生と幅増加	25	11	36	計	36

上、下流面のまとめ

	W0.2~0.9	W≥1.0mm	合計	要修理箇所	内訳
H21.1	51	15	66	新生	4
H20.5	25	15	40	幅増加	35
内 幅不変	23	4	27	内	○22,◎13
新生と幅増加	28	11	39	計	39

昨年5、6月の調査で見つかった修理を要する幅0.2mm以上のひび割れは堤体上下流両面だけで40本あった（監査廊にも3カ所）。この表によると今回の再調査で認められた要修理箇所は39カ所、うち新生は4箇所、昨年補修した13箇所と0.2mm以下であったひび割れ22箇所が開裂しているから、昨年の補修は結果において差し引き何の効果もなかったということになる。

表-5

太田川ダム ひび割れの最大値				
(赤字)				
上、下流	番号	長さ m	幅 mm	深さ mm
上 堤体	9BL-③	29.0	0.2	—
下 堤体	7BL-⑭	27.6	1.3	—
下 堤体	10BL-⑦	13.7	2.7	3800-4000
下フーチング	LF-②	11.2	3.0	—
このひび割れは堤体の6BL14に連続する。				